

平成27年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

1 附属高等学校平野校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

(2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9学級(1学年3学級) 収容定員360人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

357人(男子182人・女子175人)

(5) 教職員数

校長(併任)1, 校舎主任1, 副校長1, 主幹教諭1, 教諭20(うち任期付教諭3), 養護教諭1, 中学校併任教諭1, 非常勤講師11, ALT2, 事務職員3(専任1, 事務補佐員2), 用務員1

2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、自主自立の精神を基盤に生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上を目指してきた。平成27年度より、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」に指定され、課題解決力等の育成を目指すカリキュラムとあわせて、グローバルリーダーに必要な資質能力の育成をめざす。

3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校園の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

- (1) 小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上
- (2) SGHのカリキュラムによるグローバルリーダーに必要な課題解決力、コミュニケーション力等の育成
- (3) 3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成
- (4) 生徒会活動・学校行事等へ積極的な関与・協働をととした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養
- (5) 平野地区他校園との連携による五校園共同研究の推進。教育実習の環境整備と指導充実
- (6) 学校安全への環境・体制づくりの推進と、保護者・地域との連携強化

6 附属高等学校平野校舎 平成27年度重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	(1)小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上 (2)SGHのカリキュラムによるグローバルリーダーに必要な課題解決力・コミュニケーション力・多文化理解力等の育成 (総合的な学習の時間における課題研究の充実。学校行事や海外研修、海外高校生等との交流等をとしたグローバルリーダーとしての資質能力の育成。それらの評価方法の構築・改善) (3)3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成

年度重点目標(評価項目)	具体的な取組内容 (* 評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科指導の充実と生徒の学力の向上	①教科における授業研究・授業改善を進める。そのため、教員研修及び各教科における授業研究を進め、生徒の能動的な学習、課題解決型学習の導入を図る。 ②学習状況調査の活用	①アクティブ・ラーニング、ルーブリック評価、ICT活用に関する教員研修をそれぞれ実施し、全教科でアクティブ・ラーニング及び課題解決型学習を実践した。 ②調査結果を個々の生徒への指導に活用した。	①・各教科においてアクティブ・ラーニングの導入を一層進める。また、教員研修に継続して取り組むとともに、授業法の改善について評価する。生徒の学力伸長について系統的な測定・評価を行う。 ・管理職及び教員相互の授業観察を増やし、授業改善を継続する。 ②定期的な学習到達度評価をもとにした指導をさらに整備・充実させる。	B	課題解決型学習やグループ学習等が充実してきた。 管理職あるいは教員間の授業観察、授業法の教員研修等を継続して実施するとよい。	A	①・教員研修と授業観察を引き続き行う。 ・生徒の変容・学力の伸長の測定について計画的に実施する。 ②検討チームによる改善を行う。
グローバルリーダーの育成	SGHの取組として以下①～⑥を実施し、成果と課題を検証する。 ①1年生「総合的な学習の時間」における課題研究 ②2年生英語科授業での英語によるディベート ③台湾高雄師範大学附属	①当初の計画に基づき実施できた。30のグループが研究成果をまとめることができた。また、複数のグループが校外での発表会で成果を発表した。 ②12月に実施された他校とのディベート大会において、出場チームがともに上位の成績をあげるなど一定の成果が得られた。 ③10名を受け入れ(12月)、9名が訪問3	①課題研究については、大学等との連携の充実、教員の指導体制・指導内容の見直し等を進めることで、生徒の研究内容の深化を図る。一方、附属平野中学校との共同研究・共同開催を進める。 ②英語によるディベートにおいて、課題研究の内容と関連づけたテーマによって討論を行う。 ③台湾との交流について、課題研究の成果をも	B	①課題研究について、研究方法や研究内容に関する指導を充実させるとよい。 ②英語のディベートでは生徒が熱心に取り組んでおり、効果を上げている。 ・SGHの1年目としてし	A	①1, 2年生の課題研究について、指導体制の充実を図る。 ②英語のディベートのテーマを課題研究と関連付け、英語での討論力や発表力の向上を図る。 ⑤大教大との連携を強化し、課題解決力等の評価指標の構築に取り組む。 ・本校が重点をおく「4つの力」

	<p>高級中学の高校生との短期交換留学</p> <p>④カナダ語学研修の実施</p> <p>⑤大阪教育大学留学生とのディスカッション</p> <p>⑥グローバル人材育成に関わる評価指標の策定・評価方法の改善</p>	<p>月した。生徒間の交流が進んだ。</p> <p>④1, 2年生 33 名が参加。実施後、97%の生徒が満足と回答した。</p> <p>⑤1年生が 17 カ国のべ 32 名の留学生と、各国の文化等をテーマに交流した。双方にとって成果があった。</p> <p>⑥大阪教育大学との協働体制が進んで取組が明確になり、作業等が予定どおり進んだ。</p>	<p>とにした生徒交流の可能性を検討する。</p> <p>④特になし</p> <p>⑤留学生との交流について、年間 3~4 回の交流を計画的に実施する。課題研究に関わった意見交換の可能性について検討する。</p> <p>⑥具体的なルーブリック作成にまで作業を進める。また、大学との共同研究を進める。</p>		<p>っかり取り組まれ、計画的に進められている。</p>	<p>の育成について効果を測定するとともに、指導法の改善に取り組む。</p>	
<p>進路指導の充実による高い志の醸成</p>	<p>進路研究部及び学年との連携を強化し、1, 2 年生における職業ガイダンス及び大学・学部ガイダンス機能を充実させる。</p>	<p>第2学年が大阪大学の7学部を訪問、各学部の研究内容についてガイダンスを受講した。第1学年では、卒業生による職業ガイダンスを実施したほか、アントレプレナーシップに関わる講演会を開催した。</p>	<p>・各プログラムの効果を測定し、実施方法等の改善を図る。</p> <p>・各学年でのガイダンス内容を見直す。</p>	B	<p>・進路ガイダンスの情報保護者等に発信する方がよい。</p>	A	<p>・進路ガイダンスに関する保護者への情報提供を積極的に行う。</p>

学校教育目標	<p>学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成</p> <p>国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成</p>
学校教育計画	(4) 自主自立の精神の涵養…生徒会活動・学校行事等へ積極的な関与・協働をととした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養

<p>自主・自立の精神の涵養</p>	<p>学校行事を通し生徒の自主性・行事運営力の向上を図る。</p>	<p>各行事は円滑に実施された。教員の引継ぎについて生徒指導部を中心として見直しが進んだ。</p>	<p>①担当生徒の自発的な取組がみられるよう、生徒の意識づくりを行いながら指導する。</p> <p>②生徒会・各委員会等の一層の活性化を全教職員がサポートする。</p>	A	<p>特になし</p>	A	<p>本年度の取組をベースに、生徒の自主性を一層発揮させる指導を全教職員が意図的に行う。</p>
--------------------	-----------------------------------	---	--	---	-------------	---	--

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成						
学校教育計画	(5) 平野地区他校園との連携による五校園共同研究の推進。教育実習の環境整備と指導充実 (6) 学校安全への環境・体制づくりの推進と、保護者・地域との連携強化						
平野五校園共同研究の推進	平野地区五校園共同研究の推進、研究発表会における成果発表	・共同研究発表会で、地歴公民科、理科、英語科が授業公開したほか、全教科が成果と課題を研究集録にまとめて公表した。	来年度に向けた研究体制・研究内容を検討し、さらに五校園の連携を強める。 また、中学校とのカリキュラム連携について協議を進める。	A	特になし	A	自己点検評価「改善点」の欄と同じ
教育実習	教科担当、クラス担当の教員が連携を図り、実習生個々への指導をより充実させる。	・教科担当、クラス担当の教員からの指導のほか、実習生間のミーティングによる指導を実施した。 ・実習生への指導法をまとめたデジタルコンテンツを制作した。	教育実習主任と教科担当・クラス担当が引き続き連携して実習生の指導にあたる。 ・実習生への指導法をまとめたデジタルコンテンツを引き続き制作し、他校に発信する。	B	特になし	A	自己点検評価「改善点」の欄と同じ
保護者への情報発信	WEB ページ、保護者への一斉メール連絡(緊急連絡等)を通じた学校情報の提供に努める。	WEB ページの「学校生活ブログ」に昨年度以上の件数の情報を掲載した。また、新たに「学校からの配布物情報」を掲載した。一斉メール連絡は必要時に効率的に活用した。	より見やすいWEB ページに改訂する。 連絡メールシステムからの情報発信を行う。	B	学校から保護者への情報提供をさらにきめ細かくしてほしい。	A	連絡メールシステムの一層の活用を検討する。
中学校等への情報発信	中学生・教育関係者等に対する教育内容・入試情報の発信	大阪府の説明会への参加等、広報の機会を大幅に増やした。	さらに広報の機会を増やすため、広報委員会を中心に情報提供を早期から実施する。	A	学校の取組を積極的に広報するとよい。	A	自己点検評価「改善点」の欄と同じ